

平成 22 年度 事業報告

平成23年5月27日

一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

平成 22 年度 事業報告

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

1. 協会運営事業

1-1. 一般社団法人移行後の事業運営の強化

当協会は、「一般社団法人・一般財団法人に関する法律」等公益法人制度改革関連法に従いガバナンスを強化し、一般社団法人として協会運営、情報公開等の必要な措置を的確に実施するとともに、JEITA と同じビルに移転したことを契機に、JEITA 総務部門との連携を一層強化し、事務所管理や職員の労務管理など、事務の一層の効率化と合理化を図った。また、総会、理事会、運営役員会等を次のとおり開催し、当協会の運営に関する重要事項を審議決定し、CEATEC JAPAN をはじめとする展示会事業を実施した。

1-2. 総会

(1) 平成 22 年 5 月 28 日 第 3 回通常総会を開催し、次の議案を議決した。

- 議案
- 1) 平成 21 年度事業報告及び決算報告承認の件
 - 2) 平成 22 年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件
 - 3) 定款変更の件
 - 4) 理事選任の件

1-3. 理事会

(1) 平成 22 年 5 月 27 日 第 5 回書面理事会を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項
- 1) 平成 21 年度事業報告及び決算報告承認の件
 - 2) 第 4 回理事会で承認済の平成 22 年度収支予算（案）の一部（事務局経費予算）修正の件
 - 3) 第 3 回通常総会附議議案に関する件
 - 4) 顧問委嘱の件
 - 5) 会員退会の報告

(2) 平成 22 年 5 月 31 日 第 6 回書面理事会を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項
- 1) 代表理事・執行理事の選定
 - 2) 会長・副会長の選定
 - 3) 主たる事務所移転の件

(3) 平成 22 年 11 月 25 日 第 7 回理事会を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項
- 1) 代表理事及び執行理事の職務の執行状況報告
 - 2) 会員の入退会

(4) 平成 23 年 3 月 25 日 第 8 回理事会を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項
- 1) 平成 22 年度収支予算修正（案）承認の件
 - 2) 平成 23 年度事業計画（案）承認の件

- 3) 平成 23 年度収支予算（案）承認の件
- 4) 監事に関する件
- 5) 代表理事及び執行理事の職務の執行状況報告

1-4. 運営役員会

- (1) 平成 22 年 5 月 14 日 第 6 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
第 3 回通常総会、第 5 回書面理事会、第 6 回書面理事会の議案内容について
- (2) 平成 22 年 7 月 15 日 第 7 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
JESA の今後の方向性について
- (3) 平成 22 年 9 月 9 日 第 8 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
JESA 活動の目的と方向性について
- (4) 平成 22 年 11 月 25 日 第 9 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
第 7 回理事会の議案内容について
- (5) 平成 23 年 3 月 9 日 第 10 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
第 8 回理事会の議案内容について
- (6) JESA の今後の方向性等について円滑に検討を行うため、理事会社・監事会社の運営役員会副委員で構成する運営役員会 WG を設置した。
平成 22 年 8 月 25 日 第 1 回 WG 開催以降、計 4 回の WG を開催し、検討結果を運営役員会に答申した。

1-5. 会員の状況

年度内における会員の入会は 1 社、退会は 11 社で、22 年度末における会員数は、合計 80 社となった。

2. 展示会事業

2-1. 「CEATEC JAPAN 2010」

- (1) CEATEC JAPAN 2010 は、本年度の開催テーマ「Digital Harmony - もっと快適にもっとエコに」のもと、平成 22 年 10 月 5 日（火）より 10 月 9 日（土）までの 5 日間、千葉市・幕張メッセにおいて開催した。
「CEATEC JAPAN 2010 実行委員会」が中心となって、本展示会の開催趣旨を次の 4 項目として実施計画を立案し、主催 3 団体の役員で構成する「実施協議会」の承認を得て、開催、運営した。
 - 1) 映像・情報・通信が融合したデジタルネットワーク時代を反映した、最新の技術・製品・システム・ソフト・サービスを一堂に集め、その成果を情報発信する。
 - 2) 分野ごとに最新成果や最新動向を発信することにより専門性を発揮し、各ユーザの関心・期待・ニーズに応える。
 - 3) 映像・情報・通信分野における日本、アジア最大の情報発信・交流メディアとして、グローバルレベルの最新成果、最新動向、活力を世界に発信する。
 - 4) 関連産業界が一丸となって広く社会に問いかけ、産業の一層の進展と社会貢献を促

すとともに、デジタルネットワーク時代における生活文化、経済、社会の発展に貢献する。

また、CEATEC JAPAN を情報発信効果とビジネス効果をより高めた展示会として再構築するため、実施協議会の下に「中期ビジョン検討タスクグループ」を組織して2012年を目標年とした具体的計画を策定するとともに、その達成に向けて継続的な検討を行った。

- (2) 「CEATEC JAPAN 2010 実行委員会」を年8回開催し、次の3つの本年の基本方針に従って、来場者・出展者にとってより良い展示環境を提供するとともに、新たな施策を展開した。また、出展誘致に関する活動については、実行委員会、主催団体、事務局との連携を強化し、「CEATEC Suite」の新設などの具体的な展示拡大策を講じるとともに、国内外の流通関係者ならびに中国を初めアジアのメディアの誘致を従来にも増して積極的に推進した。

【2010年の基本方針】

①情報価値と発信力の強化

先進性のある情報、世界的影響力のある情報、社会生活に影響力のある情報の価値を高め、コアユーザ、海外、他業界ユーザ・一般生活者への発信力を強化するため、「スマートグリッドイノベーション2010」等の特別展示を実施した。

②ビジネス効果の強化

実効性のある新たな展示会トレード活動を実現するため、B to B を目的としている出展者を対象に、ビジネストレードに特化したエリア「CEATEC Suite」を新設した。また、テーマプラザの新設等、出展者にとって有益な施策を検討・実施した。

③国際化の強化

国内外における最新のグリーンITについて紹介する「グリーンIT国際シンポジウム」を開催し、日本・アジア・欧米の最新動向を発表した。また、海外来場者・海外プレスの誘致及び認知度向上を図るため、中国を初めアジアの流通関係者ならびにメディアの誘致を従来にも増して積極的に推進した。更には、新たな取り組みとして「中国メディアパネルアワード」を実施した。

- (3) 一昨年来の経済環境の悪化から総じて展示会事業の運営は難しく、特にIT・エレクトロニクス関連産業については依然として厳しい環境下ではあったが、最終的には、出展者数計616社、出展小間数計2,255小間となり、対前年比で出展者数104.4%、出展小間数106.2%と出展者数、出展小間数ともに前年水準を上回った。
- (4) 話題性の高い出展製品の増加に伴い、来場者一人当たりの見学時間が延びた結果、会場内は例年以上の賑わいがあった。
- (5) 開催前日の10月4日(月)に開催した記者会見には、172名の報道関係者が出席した。展示会場に詰めかけたメディア関係者は過去最多の2,434名となり、CEATEC JAPANに関する情報が国内外のテレビ、新聞、雑誌、Website等に多数採り上げられた。
- (6) 開催初日の10月5日(火)は午前中のみであった従来のプレミアタイムを拡張し、「特別招待日」として、多くの報道関係者並びに特別招待者を対象に、快適でゆったりとした環境の中でCEATEC JAPANの見学・取材の場を提供するとともに、通常集まる機会の少ないVIPの方々に情報交流を深める場を提供することができた。なお、会期を

通じて 964 名の VIP 来訪があった。

(7) 開催初日 10 月 5 日の夕方から国際会議場 2 階コンベンションホールにて開催したオープニングレセプションは、CEATEC JAPAN 実施協議会・川村隆会長（CIAJ 会長）による主催者代表挨拶の後、森田高 総務大臣政務官、田嶋要 経済産業大臣政務官、森田健作 千葉県知事から来賓祝辞が述べられた。引き続き、福地茂雄 日本放送協会会長、JEITA 下村節宏会長、CSAJ 和田成史会長が加わり、CEATEC JAPAN 2010 の幕開けを飾る鏡開きがとり行われ、その後は和やかな歓談の場がもたれた。オープニングレセプションには 619 名が参加した。

(8) デジタルネットワークステージは、各社が 3D 対応テレビを続々と発売するなか、裸眼で見られる 3D や、自分で撮影する 3D 映像など、各社が 3D 技術の次のステージを披露していた。また、スマートフォンや電子タブレットなどにも人気が集まった。

一方、電子部品・デバイス&装置ステージは、有機 EL ディスプレイやデジタルヘルスケアを意識したデバイス、車載用デバイス、そして、グリーン IT・スマートグリッド関連など、日本が世界的にも高い競争力を持つテーマを明確に掲げ、提案していた。

CEATEC Suite は、10 月 6 日から 8 日までの 3 日間「展示形式の新たな試み」として、今年初めて開催した。「展示会において、より活発に BtoB のビジネス創造を実現してもらうための試み」として、セミナーと展示ブースをセットで提供した。CEATEC Suite のエリアに分野別のテーマプラザが置かれ、関係企業・団体が出展した。

また、各ステージ共通して、グリーン IT、IT を駆使して電力利用を効率化する次世代送電網「スマートグリッド」、3D、デジタルヘルスケア製品や対応デバイス、ロボットなど、日本が世界的にも高い競争力を持つテーマを明確に掲げ、産業界を横断する形でさまざまな企業・団体が展示した。

(9) 展示会場では得られない最新情報を提供することを目的に開催したコンファレンスは、キーノートスピーチを含め、94 件を実施し、併催の電子情報通信学会の 13 件と合わせ、合計 107 のセッションを開催した。聴講者数は延べ 14,528 名となり、非常に熱心に聴講いただいた。

(10) 今年度は、CEATEC Suite の新設や特別招待日の設定など、来場者数の増減に影響を及ぼすと想定される新たな施策を展開した。最終的には、合計 181,417 人の来場となり、昨年の台風 18 号の影響を差し引く必要はあるものの、対前年比 120.7%と昨年実績を大幅に上回る結果となった。

2-2. 「Inter BEE 2010」

(1) Inter BEE 2010 は、平成 22 年 11 月 17 日（水）より 11 月 19 日（金）までの 3 日間、千葉市・幕張メッセにおいて開催した。

(2) Inter BEE 2010 は、「Inter BEE 2010 実行委員会」が中心となって本展示会の実施計画を審議・立案し、本協会にて運営した。

(3) 経済環境の好転が期待される中、開催規模は、過去最多となる出展者数 824 社（うち海外：28 カ国／地域から 478 社）、出展小間数 1,345 小間となり、対前年比で出展者数 101.0%、出展小間数 96.7%となった。

(4) Inter BEE 2010 のオープンに先立ち、開催初日の 11 月 17 日（水）午前 9 時 40 分

より展示ホール5の2階（中央エントランス）において開会式を実施した。社団法人電子情報技術産業協会の長谷川英一常務理事による主催者挨拶の後、日本放送協会（NHK）の永井研二専務理事・技師長、社団法人日本民間放送連盟（NAB-J）の工藤俊一郎常務理事（企画部長 竹内淳氏による代読）より、来賓祝辞が述べられた。引き続き、2010年国際放送機器展実行委員会の濱田寿水委員長（東芝）による開会宣言が発せられ、Inter BEE Content Forumに登壇予定のアレックス・トージャー氏（Troublemaker Studios 社クリエイティブ・ディレクター）、フローリアン・カメラ氏（EBU ラウドネス規格委員会 議長）の3名と来賓に主催者を加えた6名によるテープカットが行われ、Inter BEE 2010 が開幕した。

- (5) 本年は従来からの放送分野に加え、通信、IT、音響、ライティングなど広範な技術分野を俯瞰できる総合的な展示会として、急速に発展を遂げつつある3D映像はもとより、HDTVを核とする最先端の放送・映像・音響機器、IT・通信等を活用した新たなワークフローやソリューションなどが一堂に会し、放送の進化と可能性を体感できる日本で唯一の大型展示会となった。また、昨年に引き続き開催された「IPTV、Mobile TV、クロスメディアゾーン」では、放送・通信の融合最前線にあるIPTV関連技術やデジタル化完全移行後のビジネスチャンスが期待されるMobile TVの他、デジタルサイネージ、デジタルシネマ、3D分野の最新技術動向を提示し、注目を集めた。
- (6) 来場者数は、全体では31,567名で対前年比99.6%と微減となったが、海外出展者の増加等により海外来場者は962名（全体31,567名の内数）と対前年比123.7%と大幅に増加した。Inter BEEが海外市場にも影響をもつ展示会として位置付けられてきているものと考えられる。
- (7) 「Inter BEE Content Forum」では、“さらに進化するユーザ視点によるコンテンツ創造”をテーマに掲げ、国内外から映像・音響各分野で活躍する第一人者をプレゼンターに迎え、コンテンツビジネスの最新動向が議論されたほか、「Inter BEE チュートリアル・セッション」では、放送・映像・音響業界の若手人材や興味を持つ学生を対象に、第一線で活躍する講師陣が、最先端技術トレンド、最新機器・システムの活用法、コンテンツ制作手法などを教授し、若手人材の育成とともに今後の業界発展に貢献した。また、「第47回民放技術報告会」では、全国民放局の第一線の専門家が、変革を遂げつつある放送局の現状や課題を語り、各局が開発した様々な最新技術を一般に公開する唯一の場として、これからの放送の方向を知る貴重な機会を提供した。さらに、世界的な技術潮流に呼応し、「Asia Contents Forum Powered by DigiCon6」や「全映協フォーラム」が同時開催され、様々な最新技術動向が多岐にわたり情報発信された。
- (8) 開催終了までの間に7回のプレスリリース配信を行った。404名（内海外21名）の報道関係者が取材に訪れ、Inter BEEに関する情報が記事掲載や映像として多数採り上げられた。

2-3. 「EDSFair 2011」

- (1) EDSFair 2011は、平成23年1月27日（木）、28日（金）の2日間、横浜市・パシフィコ横浜において開催した。今開催では、ビジネスタイムには外出しにくい多忙な設計者などが来場しやすい環境を作るために、1月27日（木）の閉館時間を従来の18時

から 20 時まで延長した。なお、今年度の開催テーマは、厳しい国際競争の中、日本の産業競争力を向上させ、世界をリードすべく「設計維新！」とした。

- (2) EDSFair 2011 は、主催する社団法人電子情報技術産業協会 EDA 技術専門委員会と連携し、「EDSFair 2011 実行委員会」が中心となって本展示会の実施計画を審議・立案し、本協会にて運営した。
- (3) 設計ソリューション・設計技術・EDA 技術や、それらを活用した IP ソリューション・設計サービスが一堂に会するビジネス展示会として、効果的で有意義な情報交流やビジネス創出の場を提供した。経済環境厳しい中、出展者数計 118 社、出展小間数計 199 小間となっており、対前年比で出展者数 104.4%、出展小間数 86.2%となった。また、来場者数は対前年比 86.2%の 8,016 名となった。
- (4) 会場内での特設ステージでは、最新 EDA 技術を紹介する「システム・デザイン・フォーラム」の特別協力によるセッションを実施した。また、ASP-DAC（第 16 回アジア南太平洋設計自動化会議）の同時開催に合わせて、ASP-DAC デザイナーズフォーラムと連携し、LSI・パッケージ・ボードとチップ・パッケージ・ボードに関するコラボ企画セッションを実施した。昨年、好評を得た第一線で活躍する設計者セッションやローパワーセッションを本年も実施し、エンジニアはもちろん管理職、若手技術者まで、多くの設計者に有益な情報を発信した。
- (5) 第一線で活躍中のエンジニア、設計・開発を率いる管理職、さらに若手エンジニアまでを対象とした出展者セミナーでは、幅広い内容をトラックごとにわかりやすく実施した。出展者セミナーは、計 82 セッション開催され、延べ 2,491 名の聴講者を集めた。
- (6) 性能向上、リスクコスト削減、低消費電力化、地球環境保全などの課題を解決する新しい設計ソリューションや、世界最先端技術・サービス等に関する情報が展示とともにオープンセッションや多彩なセミナーを通じて多数発信された。また、展示場内の特別ゾーンとして、普段接することが少ない国内外のベンチャー企業のソリューションを集めた「新興ベンダエリア」を設置するとともに、日本の EDA の発展を目指して設立された「日本 EDA ベンチャー連絡会 (JEVeC)」との協力による特別企画「JEVeC ビレッジ」を設置して日本企業ならではの「ものづくり力」を活かした技術や製品をアピールした。さらには、産学の交流を促進するとともに、日本における EDA 技術、システム LSI 設計技術を始めとした電子回路設計技術およびソリューション技術の更なる向上を図ることを目的として、国内外の大学機関による設計技術に関する研究成果を発表する「ユニバーシティ・プラザ」を設置した。
- (7) 海外出展企業を見学希望する来場者に、日本の設計技術・EDA 技術の第一人者が、ブースへ同行訪問し、各社の技術紹介・質疑応答を日本語でサポートする「新興ベンダ・ガイド・ツアー」を実施した。また、27 日（木）18 時から 20 時をプレミアムアワーとして開催し、ビジネスタイムには外出しにくい多忙な設計者が来場しやすい環境を作った。あわせて、28 日（金）の開催時間終了後に展示場内特設ステージにおいて「ワインの夕べ」を開催し、来場者と出展者の効率的かつ効果的なコミュニケーションとビジネス機会創出の場として好評を得た。

2-4. 「CEATEC JAPAN 2011」

CEATEC JAPAN 2011 は、平成 23 年 10 月 4 日（火）より 8 日（土）までの 5 日間、千葉市・幕張メッセにおいて開催予定。ビジネスに役立つ国際展示会を目指し、一層の改革を行うべく、各種施策を検討した。

特に主催団体との連携を例年以上に強化し、JEITA とは 2010 年 11 月から出展誘致活動や特別企画などの各種施策を早期に実行している。

2-5. 「Inter BEE 2011 2011」

Inter BEE 2011 は、平成 23 年 11 月 16 日（水）より 18 日（金）までの 3 日間、千葉市・幕張メッセにおいて開催予定。放送・映像・音響に関する質の高い国際的なトレードショーを目指し、各種施策を検討した。

2-6. 「EDSFair 2011 Nov.」

EDSFair は、当初予定していた平成 24 年 1 月より変更し、EDSFair 2011 Nov. として平成 23 年 11 月 16 日（水）より 18 日（金）までの 3 日間、横浜市・パシフィコ横浜において開催予定。社団法人組込みシステム技術協会が主催する Embedded Technology（組込み総合技術展）と同時開催の予定。両展示会の強みを持ち寄るとともに、複数の共同企画を策定するなど、出展企業および来場者のメリットを最大化することを共通目標として展示会の一層の発展を目指す。

3. 海外との連携活動及び広報活動

3-1. 海外関連展示会主催団体等との連携活動

当協会の主要事業である展示会の国際化促進を図るため、次の海外関連展示会の主催団体等と、広告、プレスコンファレンス、出展誘致など相互協力を行うとともに、各展示会の情報収集活動を行った。

(1) CEATEC JAPAN の海外広報活動

1) IFA 2010 ベルリンショー（2010 年 9 月 3 日～9 月 8 日／ドイツ・ベルリン）

会期中の 9 月 4 日に IFA 会場において、CEATEC JAPAN 2010 のプレスコンファレンスを開催し、約 60 名の出席プレスに開催概要等の資料を配布した。

2) 2011 International CES（2011 年 1 月 6 日～9 日／米国・ラスベガス）

会期中の 1 月 7 日にホテルベネチアン会議室にて CEATEC JAPAN 2011 プレスコンファレンスを開催し、約 50 名の記者が出席した。CEATEC JAPAN の開催概要等を説明するとともに、CEATEC JAPAN 2011 オフィシャル メディア ツアーを案内し、取材のための来場を依頼した。また、CEATEC JAPAN 2010 出展企業によるプレゼンテーションを行った。

3) 台湾・TEEMA (Taiwan Electrical and Electronic Manufactures' Association)

出展募集説明会（2011 年 3 月 18 日／台湾・台北）

CEATEC JAPAN 2011 の出展に関心のある TEEMA 会員企業及びプレス関係者に対して、出展募集説明会を開催し、27 社の出席者に CEATEC JAPAN 2011 の出展募集関

連資料等を配布した。

(2) Inter BEE の海外広報活動

2010 NAB (National Association of Broadcasters) Show (2010年4月12日～15日
/米国・ラスベガス)

会期中に Inter BEE のブースを開設してプロモーションを行った。

3-2. 海外における JEITA 主催の展示会等への支援活動

(1) 「AEECC (Asia Electronics Exhibition Cooperation Conference)」

2010年6月27日～30日の3日間、韓国・濟州島にて AEES 主催 5 団体 (JEITA (日本)・TEEMA (台湾)・KEA (韓国)・CEAC (中国)・HKTD (香港)) による会議を開催した。本協会が参加し、各団体が自国で開催する展示会の状況報告と相互協力強化について意見交換を行った。次回は、香港で開催することとした。

(2) 「AEES 2010 (Asia Electronics Exhibition in Shanghai 2010)」

2010年11月3日～5日までの3日間、中国・上海市「上海新国際展覽中心」において上記5団体共同主催による展示会を開催し、CEATEC JAPAN PR ブースを設置して CEATEC JAPAN 2010 にて実施した米国メディアパネルイノベーションアワードならびに中国メディアパネルアワードの紹介パネル等を展示した。

4. フォーラム及びセミナーの運営事業

JEITA 及び関連団体が主催する次のフォーラムの運営を行った。

電機・電子 5 団体 環境フォーラム 2010

会 期：2010年7月2日(金)

会 場：日本教育会館「一ツ橋ホール」 聴講者数：304名

主 催：社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA)

財団法人 家電製品協会 (AEHA)

情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)

社団法人 日本電機工業会 (JEMA)

社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)

5. 展示会関係資料の発行

次の展示会関係資料を発行し、関係方面に広く無償配布した。

- 1) 「CEATEC JAPAN 2010 報告書」(和文版・英文版)
- 2) 「CEATEC JAPAN 2011 出展のご案内」(和文版・英文版)
- 3) 「Inter BEE 2011 出展のご案内」(和文版・英文版)
- 4) 「EDSFair 2011 出展のご案内」(和文版)

以 上